

太平洋と日本海、2つの海をもつまち八雲町。

平成17年には、古くからの歴史を有する檜山管内の旧熊石町と、明治初期尾張徳川家の旧家臣らによって町の基礎が作られた旧八雲町が合併し新「八雲町」となり、現在、豊かな自然のなかで営まれる農業と漁業は、基幹産業として地域経済を支える基盤になっています。

八雲町は道南北部地域の中心都市として、医療機関や商業施設などの都市機能がコンパクトに整備されたまちでもあります。その一方、市街地から数キロ足を伸ばすと、サケの自然産卵や天然記念物のオジロワシやオオワシの飛来が観察できる、多様な自然と都市の利便性がほどよく共存するまちです。

少子高齢化が進むなか、八雲町はいま、交流人口の拡大による新しいまちづくりプロジェクトに取り組んでいます。その八雲町の現況についてご紹介します。



## 八雲町町勢要覧 2014 「八雲町 太平洋と日本海 二つの海をもつまち」 — 現況編 — (※索引は5ページ)

# トレンドマップ 八雲図鑑



11月 サケ漁 (噴火湾)

